

美しい国土の発見と再生に向けた総合地域誌の設計について

国土地理院地理調査部社会地理課地誌係長 綿引多実子

1、はじめに

我が国は、地域による気候・風土の多様性や、変化に富んだ四季、水と緑豊かな美しい自然景観や風景などから、その美しさは海外からも高い評価を得ていると言われている。

その一方で、高度成長期以降、国土づくり、まちづくりにおいて、経済性や効率性、機能性を重視したことから、歴史や風土に育まれた地域の特性が失われ、美しさへの配慮を欠いた雑然とした景観などが各地で見られるようになった。そうした反省から、近年、良好な景観形成に対する関心やニーズが高まってきている。

このような背景から平成15年7月、政府による「観光立国行動計画」と国土交通省による「美しい国づくり政策大綱」が策定された。

国土地理院では、これらの政策が目指す未来に引き継ぐべき美しい国土の実現のためには、国民一人一人が国土・地域に関してより深くその特徴を理解することが必要であると考え、地域の自然条件に関する地理的情報のみならず、地域の歴史・文化も含めた情報を総合地域誌として体系的に整備し、正確かつわかりやすく提供するための検討を始めた。

自然条件に関する地理的情報のみならず、地域の文化・歴史をも含めた地誌情報をわかりやすく再編集・整理し、「**全国総合地域誌**」として整備



図 - 1 総合地域誌のイメージ

2、検討内容

上記のような背景と目的から、平成15年度において、総合地域誌を整備するにあたって以下のような項目について検討作業を行った。

2.1、データベースの基本設計

国土地理院内外の多くの有用な地誌情報について、下記3項目を基本に調査を行い、総

合地域誌への効果や有用性などを整理・分析したうえで、地域誌データの資料リストを作成しデータベースの基本設計を行った。

地域の特徴的な歴史・風土・文化等の事象（地形・景観・食・史跡・名勝等）
古地理調査データ等を利用した情報の変遷（海岸線・河川・土地利用等の時系列的表現等）

各種地図・地理情報等から分かる普段知られていない様々な情報（ 百選・ベストテン等）

2.2. サンプルデータ作成と活用例の検討

作成した資料リストの中から、国土行政、自治体のまちづくり、観光・旅行、地理教材、郷土文化事業などに活かす観点から、GIS等の情報処理技術を活かした総合地域誌がイメージできるような活用例を考察した。

経年変化アニメーション構想

ポイント：アニメーション技術を利用して、土地利用等その場所の変遷を視覚的に表現する。

活用例：どのような時代を経てきたか、周りの集落の変化を含めて分かりやすく表現できるので、道づくりや川づくり等の都市計画や地域教育に役立つ。

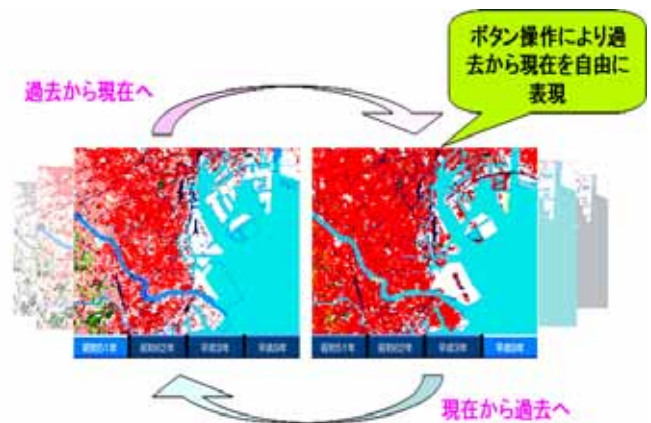


図 - 2 経年変化アニメーション構想

地名データベース構想

ポイント：昔から残る地名などのデータベースの活用。

活用例：地名は、その土地の自然環境や歴史・文化と密接に結びついていることが多く、地誌的なルーツを探る手がかりとなり新しいまちづくりに活かせる。

国土空間モデリング手法による地理情報の作成構想

ポイント：新技術を利用した地理情報の活用。

活用例：国土空間モデリングによる表現と他のデータを組み合わせることで、「海面上昇シュミレーション」など、地球温暖化による国土への影響の大きさを理解することに役立つ。

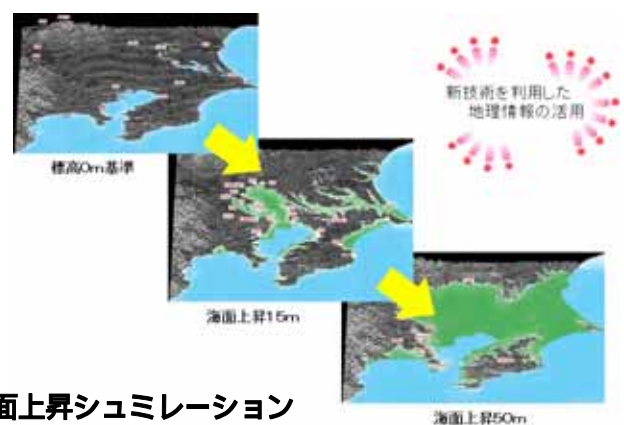


図 - 3 海面上昇シュミレーション

国土再発見・郷土愛をテーマとするマルチメディア GIS 構想

ポイント：過去の歴史的なニュース映像や CG を地図にリンクさせた情報。

活用例：GISにより実際の空撮画像とリンクした歴史・文化・風土などの地誌情報を見ることによって、国土・地域の全体像を体感的に知ることができ、観光情報ツールとしても役立つ。

双方向蓄積型地図作成サイト構想

ポイント：あるテーマについて、さまざまな人が付箋紙を貼るように情報を追加する。

活用例：過去から未来へと人々の意見が積み重なり、日本の「原風景」を未来へ引き継ぐなど、歴史・文化を活かした国土づくりに役立つ。

2.3、公開・提供に関する検討

様々な分野におけるデータの利活用を図るために、Web-GIS(インターネットGIS)等の最新技術を利用した3Dモデル等による視覚的表現、セキュリティポリシーの策定やデータの蓄積・配信などの開発・整備条件が必要と言える。また、情報化社会の時代においてシステムやデータを陳腐化させないためにも、提供情報についてユーザーの意見・要望を吸い上げるなどのフォローアップ体制の構築も重要となる。

3、まとめ

検討作業では、これまで国土地理院が整備・提供してきた地誌に関する多くの成果と、外部機関が公開している地誌に関する情報をとりまとめ、5つの活用例を示すことができた。

今後さらに国土地理院が取り組むべき具体的施策の方向性としては、マルチメディアGIS構想のような国土や地域価値を見い出す新たな手法の開発、電子国土を利用した双方向型地図情報サイトの構築などが考えられる。

このような方向性から整備を進めることにより、総合地域誌の幅が広がり、様々な分野で活用されることが期待できる。

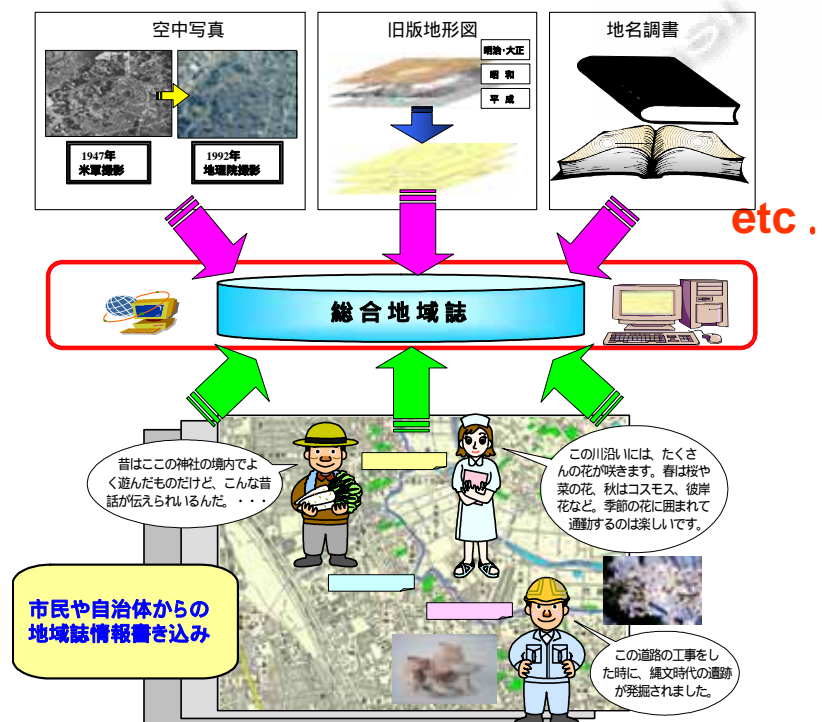


図 - 4 双方向型地図情報サイトの構築

4、今後の課題

国土変遷アーカイブをはじめ総合地域誌に有用なデータの作成や収集

情報を共有する関係機関との情報の共有方法・共有ルールの確立

Web-GIS (インターネット GIS)等の最新技術を利用した 3D モデル等による視覚的表現技術の活用

インターネットなどで広く一般に提供するために、データの蓄積・配信などサーバやネットワークインフラの整備